

旭川市中園廃棄物最終処分場監視委員会 及び 旭川市廃棄物処分場環境対策協議会 (令和5年度の調査検討内容等)

■令和5年度会議内容

第1回(令和5年5月16日)

- ・ 監視委員会(※印は対策協議会と共通)
 - (1) 令和5年度定例会議及び調査検討計画について(※)
 - (2) 旭川市廃棄物処分場の構造及び中園廃棄物最終処分場閉鎖工事の概要について
 - (3) 令和4年度環境調査の結果について(※)
 - (4) 環境調査(河川水測定)について(※)
 - (5) 環境調査(共和・新共和)について
 - (6) 監視機関委員の視察について(※)
 - (7) 勉強会について(※)
- ・ 環境対策協議会(監視委員会と共通の項目以外)
 - (1) 旭川市廃棄物処分場の自主基準値について

第2回(令和5年8月24日)

- ・ 監視委員会(※印は対策協議会と共通)
 - (1) 中園廃棄物最終処分場の現況について
 - (2) 環境調査(河川水測定)について(※)
 - (3) 環境調査(共和・新共和)について
 - (4) 廃棄物施設の視察について(※)
- ・ 環境対策協議会(監視委員会と共通の項目以外)
 - (1) 旭川市廃棄物処分場の現況について
 - (2) 旭川市廃棄物処分場の自主基準値について

第3回(令和6年2月5日)

- ・ 監視委員会及び環境対策協議会(合同会議)
 - (1) 令和6年度廃棄物最終処分場関係予算の概要について
 - (2) 環境調査(新共和のガス測定)について
 - (3) 令和6年度の環境調査について
 - (4) 中園廃棄物最終処分場の現況について
 - (5) 旭川市廃棄物処分場の現況について
 - (6) 旭川市廃棄物処分場の自主基準値について

■勉強会・視察(過去2年間)

(1) 勉強会

- ・ 令和4年度第1回会議 「埋立処分の基礎知識」松藤会長
- ・ 令和5年度第2回会議 「埋立地の跡地利用」松藤会長

(2) 視察

- ・ 令和4年 8月22日 近文清掃工場, 近文リサイクルプラザ(旭川市近文町)
- ・ 令和4年10月18日 REPLA ファクトリー(旭川市工業団地)
- ・ 令和5年10月12日 環境クリーンプラザ「いわぴか」(岩見沢市)

■中園廃棄物処分場における放流水の自主基準値見直し

旭川市廃棄物処分場の建設計画時に地域住民と協議を行い、法定基準より厳しい自主基準値を設定していたが、この基準値は処分場廃止の判定に用いられることから、廃止に至るには相当な期間を要することが予想され、維持管理費の負担が課題となっていた。

このことから、平成27年に地区市民委員会に自主基準値の見直しについて事前説明を行い、その後も地域住民を対象に学識経験者による説明会を開催して見直しによる影響を説明した結果、地域の合意が得られたことから、令和元年10月に現在の基準値に改定した。

このことにより、水処理工程を簡略化することが可能となり、経費削減に繋がった。

また、処分場の廃止に向けた取組として、浸出水については廃止基準を満たす見通しとなった。

中園廃棄物最終処分場の自主基準値

項目	単位	法定基準	自主基準値		(参考) R5年度 浸出水水質
			改定前	改定後	
BOD	mg/ℓ	60	20	60	1.9~24
SS	mg/ℓ	60	10	60	12~32

■中園廃棄物処分場における発生ガス及び地中温度の測定について

中園廃棄物最終処分場の廃止に向け、廃止判定に活用可能な発生ガスの測定方法等について監視機関で審議を行い、令和3年度第3回会議において測定方法を決定。令和4年度からガス発生量が多いガス抜き管(14か所)とガス濃度が高いガス抜き管(2か所)の計16か所で熱線流速計により発生ガスを測定。同地点で地中温度の測定も行い、廃止手続きに必要なデータ採取を継続している。

■監視機関での議論をととして削減した経費

監視機関会議において、環境調査項目や地点数、水処理工程について学識経験者委員から化学的な説明を受け、真に必要な内容を精査し予算削減に努めてきた。

○環境調査項目・地点の精査

(千円)

処分場名	予 算				削減額
	平成 1 6 年度		令和 6 年度		
旭川市廃棄物処分場	39地点	28, 508	8地点	8, 283	
中園廃棄物最終処分場	33地点	13, 600	22地点		
合 計	72地点	42, 108	30地点	8, 283	
					33, 825

※平成27年度から両処分場の調査を統合

累計削減額 5億6千万円

○中園廃棄物最終処分場オゾン処理設備の停止(平成23年度)

中園廃棄物最終処分場においては、浸出水の色度を除去するためオゾン処理を行っていたが、オゾン処理を行わなくても放流水の安全性が確認されたことから、処理を停止し電気料金を削減した。

削減額(1年間) 1,500万円

○旭川市廃棄物処分場カルシウム除去の停止(平成28年度)

旭川市廃棄物処分場において、水処理施設の配管等にカルシウム分が付着し、管が閉塞するのを防ぐためにカルシウム除去を行っていたが、カルシウム除去を停止しても影響ないことが確認されたことから、除去を停止し薬品費を削減した。

削減額(1年間) 630万円

○旭川市廃棄物処分場膜分離処理設備の凝集剤注入停止(令和2年度)

旭川市廃棄物処分場において、水処理施設の膜分離処理設備で COD 除去や膜の目詰まり防止等のために凝集剤注入を行っていたが、凝集剤注入を停止しても影響がないことが確認されたことから、注入を停止し薬品費を削減した。

削減額(1年間) 280万円

○中園廃棄物最終処分場水処理工程の簡略化(令和3年度)

令和元年10月に放流水の自主基準値を改定したことに伴い、令和2年8月から高度処理(砂ろ過処理)を停止。令和2年12月から一次処理(曝気処理・凝集沈殿処理)を停止して、段階的な水処理工程の簡略化を行い、それに伴う施設維持管理費用の削減を図った。

削減額(1年間) 3,400万円